



わくわく集会 ～給食委員会～

今日1月30日(木)のわくわく集会は、給食委員会が発表しました。まず、給食委員会の仕事を三つ紹介してくれました。一つ目は、給食室前で給食の先生方の手伝いをする事です。二つ目は、給食室前の給食黒板をみんなに興味をもってもらうために毎日書き替えることです。三つ目が給食について楽しく知ってもらえるようにいろいろなイベントを考えることです。

次に、給食委員会の仲間を紹介してくれました。「給食大好き、だけどちょっぴり箸の持ち方が苦手な二代目給食王ホッシー」と、「牛乳大好き、帯西みんなが考えて誕生したミルクキング」です。その二人がある日の給食の三つの場面を寸劇を交えて紹介してくれました。一つ目は、給食の待ち時間の場面についてです。男の子たちが、給食の待ち時間に立ったり騒いだりしています。そこに給食王が表れて、「給食の待ち時間に立ったり騒いだりすると、給食に唾が入ったりゴミが入ったりするんだよ。」と戒めてくれました。二つ目は、牛乳パックを適当にたたんで捨てようとしている子供に、ミルクキングが現れて、「牛乳パックをちゃんと畳まないと、牛乳パックが袋から溢れ出て給食委員さんが困ってしまうんだ。」と教えてくれました。三つ目は、女の子たちが食器を荒々しく片付けていると、給食王がやって来て「優しく食器を扱って、帯西ブルーの心で食べ物はもちろん、物を大切に扱ってね。」と諭してくれました。寸劇は「あたりまえ体操」の替え歌と振り付けも交えてくれて、会場の子供たちもみんな笑顔で食い入るように見入っていました。

最後に今日の発表の振り返りクイズを出題し、給食のマナーや給食時間のルールについて再確認することができました。

感想交流では、2年生の子供は「🍎『帯西レッド』の心が伸びました。それは、給食の食器はちゃんと優しくへこまないように置こうと思ったからです。」、4年生の子供は「🍎『帯西レッド』の心が伸びました。それは、牛乳パックはきちんとたたもうと思ったからです。」、6年生の子供は「🍎『帯西レッド』の心が伸びました。それは、給食委員会さんが劇で低学年にも分かり易く伝えていて、僕も『あたりまえ給食』で給食時間は楽しく過ごせたらいいと思ったからです。」と感想を述べました。今回は、レッドの心の伸びを感じた子供たちが多かったようですが、これは発表を聴いて、即自分のために生かそうという意欲の高まりだと感じました。

それに対して給食委員長の林田さんは「これからの給食は、マナーを守って、楽しく食べてみてください。」と応えていました。給食委員会の皆さん、日々の給食の片付けの手伝いや、食への関心を高めてくれる発表を面白くそして分かりやすくしてくれて、ありがとうございました。

